

2009年7月27日(月)

投資家・株主の皆様へ

ソルクシーズグループ代表
株式会社ソルクシーズ 代表取締役社長 長尾 章

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

我が国の経済は、昨年来の世界的な景気悪化により、企業の倒産も相次いで発生するなど深刻な状況が続いております。最近、中国等の外需の回復や在庫調整の進展により、産業界の一部で増産の動きも伝えられるなど、景気回復の兆しも始まっておりますが、当社グループが属します国内IT業界においては、顧客企業におけるIT投資意欲の減退により、厳しい事業環境が続いており、本格的な回復は来期以降になると見られます。

このような環境下、この第2四半期の当社グループの業績は、主事業である受託開発業務において、比較的底堅い収益を上げることが出来たものの、自動車教習所向けソリューション事業やデジタルサイネージ事業などを行う子会社3社において、不景気の影響を受けて業績が悪化したため、特別損失としてのれんの全額を減損処理することと致しました。この結果、第2四半期累計の連結業績は、売上高 4,639百万円(単独 3,558百万円)、営業利益 28百万円(単独 198百万円)となり、のれん減損 857百万円(単独では子会社株式評価損 1,196百万円)を計上することにより、第2四半期累計純損益は▲1,027百万円(単独▲1,069百万円)と多額の損失を計上する見込みです。

その結果、配当原資が不足することとなるため、誠に遺憾ながら、今年度の株主配当(第2四半期末、年度末)は無配とさせていただきます。

当社では、この度の減損処理によって、来期以降はのれんの償却負担が大幅に軽減される結果、事業構造改革を加速させることが可能となり、来期以降の需要回復を着実に捉えられる態勢を早期に構築することが可能になると考えております。この危機を乗り越えるため、具体的に以下の施策を鋭意進め、業績の回復を通じ、来期の復配を目指してまいります。

① 専門特化戦略の推進とストック型ビジネスの業務・収益構造の抜本的見直し

当社グループの得意分野である金融業界向け、組み込み系などの受託開発業務につき、その専門性に一層の磨きをかけるとともに、体制の更なる充実化を図ります。また、ストック型ビジネス強化目的で取得致しました子会社については、安定的な売上・収益の確保という本来の目的を達成すべく、そのビジネスモデルを見直し、サービスの内容・質を抜本的に改善してまいります。

② グループ全体の経営の効率化を推進

お客様のニーズにより的確且つ迅速に対応できるよう、グループ各社の一層の連携強化などを推進いたします。

③ 合理化・コスト削減

グループ全体での経費削減（本体役員の報酬カット 15%、事務所の統合・移転など）、子会社の経理・人事・総務などの管理業務についての本体集中化、グループ全体での人材の有効活用などを推進いたします。

なお、このような状況ではございますが、株主優待につきましては、安定的な株主還元を継続するという方針に則り、今期も継続実施させて頂く予定です。

株主の皆様には、ご心配とご迷惑をおかけしますが、何卒、事情ご理解の上、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。